

専門科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE000	リサーチ・プログラム開発5		2	2.0	1	春AB	応談	白戸 健一郎, 生藤 昌子, 関 能徳, 文 昶允, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 後藤 嘉宏, 木 戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石 塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰栄, 井 出 里咲子, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ダダバエフ ティムール, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関 崎 博紀, 山本 英弘, 塩谷 哲史, ルート ヴァン パーレン, 嚴 錫仁, 高橋 秀直	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。レポートは「リサーチ・プログラム開発1, 2, 3, 4」とは別のものでなければならない。	02DMC01と同一。
OBBE001	リサーチ・プログラム開発6		2	2.0	1	秋AB	応談	白戸 健一郎, 生藤 昌子, 関 能徳, 文 昶允, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 後藤 嘉宏, 木 戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石 塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰栄, 井 出 里咲子, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ダダバエフ ティムール, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関 崎 博紀, 山本 英弘, 塩谷 哲史, ルート ヴァン パーレン, 嚴 錫仁, 高橋 秀直	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1, 2, 3, 4, 5」とは別のものでなくてはならない。	02DMC02と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE002	リサーチ・プログラム開発7		2	2.0	2	春AB	応談	白戸 健一郎, 生藤 昌子, 関 能徳, 文 昶允, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一三三 朋子, 後藤 嘉宏, 木 戸 光子, 平沢 照 雄, 柴田 政子, 石 塚 修, 川崎 レス リー タック, 小野 正樹, 崔 宰栄, 井 出 里咲子, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ダダバエフ ティ ムール, ブッシュ ネル ケード コン ラン, 宮坂 渉, 関 崎 博紀, 山本 英 弘, 塩谷 哲史, ルート ヴァン バーレン, 巖 錫 仁, 高橋 秀直	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などは幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1, 2, 3, 4, 5, 6」とは別のものではなくてはならない。	02DMC03と同一。
OBBE003	リサーチ・プログラム開発8		2	2.0	2	秋AB	応談	白戸 健一郎, 生藤 昌子, 関 能徳, 文 昶允, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一三三 朋子, 後藤 嘉宏, 木 戸 光子, 平沢 照 雄, 柴田 政子, 石 塚 修, 川崎 レス リー タック, 小野 正樹, 崔 宰栄, 井 出 里咲子, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ダダバエフ ティ ムール, ブッシュ ネル ケード コン ラン, 宮坂 渉, 関 崎 博紀, 山本 英 弘, 塩谷 哲史, ルート ヴァン バーレン, 巖 錫 仁, 高橋 秀直	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などは幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1, 2, 3, 4, 5, 6, 7」とは別のものではなくてはならない。	02DMC04と同一。
OBBE110	日本社会と家2		2	1.0	1 - 3				日本の伝統的な家業経営体であるイエの構造、その組織原理としての特性やイエが育む個人主義を比較歴史制度分析の視点からとらえることを目指して、組織原理としての「家」を巡る歴史観や理論を演習を通して再検討する。一休の転生と破戒の思想—日本個人主義の源流、「近代」の脱オリエンタリズムの再定義—産業革命はなかった、「家」社会の個人と組織—西洋と日本の近代、日本における暴力の宗教的正統化、イエ社会の盛衰とイモセの絆、「甘え」の破綻と「いき」の復権、母性社会論の脱構築、といった論点について、『平山朝治著作集第4巻 「家」の伝統と現代社会』(中央経済社、2009年)をテキストとして検討する。	02DMK04と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE111	韓国社会と家2	2	1.0	1 - 3					韓国社会における「家」について他文化圏との比較考察を交えつつ学ぶ。韓国の「家」は、伝統的に儒教思想の強い影響下にあったが、植民地の時代を経ながら、また近代化の進行の中で変貌を余儀なくされている。現代においては高齢化問題、少子化問題の深刻化が進み、政治・社会・経済の変動にともなう、老父母扶養の問題、夫婦間の役割問題、親子間の価値観問題なども顕在化している。この授業では、主に韓国の伝統的な家族倫理と家庭教育の内容に関する諸文献を講読しながら、中国、日本の「家」との比較考察を行う。	02DMK05と同一。 2020年度開講せず。
OBBE130	日本古典文化と身体2	2	1.0	1 - 3	春AB	火2		嚴 錫仁	東アジア地域において同じ儒教文化圏に属しながらも、武人政権の長い歴史を持っている日本文化は、儒教的身心論の展開においても中国と朝鮮とは異なる特性を表している。一つは「文武二道」として、日常生活のなかでの身体的能力の錬磨の重視であり、もう一つは「賞罰を施すと云も、此身のはたらき上に従て置施ぞ」というような、身体的行動がもたらす結果を心的な動議よりも重視している点である。この授業では、こうした点をベースにおいて、江戸時代の儒学者の言説を取り扱い、日本人が伝統的に受け継いできた身体的所作について、中国、韓国との比較においてその文化的意義を学ぶ。	西暦偶数年度開講。 02DML08と同一。
OBBE131	日本のエンターティメントと社会経済	2	1.0	1 - 3	春C	月4,5		平山 朝治	日本の貨幣経済と、冤罪で殺された貴人の怨霊・御霊を祭って災厄を避け、加護を得るという信仰は、7世紀後半に東南アジアから伝わった東方キリスト教に由来する(『平山朝治著作集 第3巻 貨幣と市民社会の起源』中央経済社、2009年)。尾池和夫らによれば祇園祭は869-貞観11年(2011年の1周年前)の東日本大震災後に行われた神泉苑御霊会にはじまり(https://blog.goo.ne.jp/kotodama2009/e/b034458fc6acb07c0ff0150b5411ee24 、「京都の地球科学(二五五)」『氷室』2015年7月号)、多くの人が説くように蘇民将来伝説は過越と似ており、祇園守紋は×十字であるように、東方キリスト教起源の怨霊・御霊信仰が日本の伝統的な祭礼や芸能を生み出した。このような日本の伝統的エンターティメントと社会経済の関係について、上記拙著を予め読んで上で、DVD視聴や実地体験をふまえて議論し、知見を深めることを目的とする。祇園祭DVD、能楽DVD(道成寺 梅若六郎)、歌舞伎DVD(京鹿子娘道成寺 坂東玉三郎)などを取り上げ、祇園祭の青山、山鉾巡行、神輿渡御などの見学(7月16~17日、京都)を行う。	西暦偶数年度開講。 02DMM02と同一。
OBBE132	情報学特別演習1A	2	1.0	1	春ABC	応談		後藤 嘉宏	文献輪読による演習形式の科目。具体的には中井正一の文章及びその関連文献を読み討論する。身につく力は討論力、テキスト分析力である。中井正一(1900-52)は戦前は映画を射程に入れた美学者として知られ、現代のマスメディアの報道等も射程に入れた独自の美学を構築し、また反ファシズムの運動の一環で読者の投稿のみによって作られることを目標にした新聞を刊行した。メディア、媒介を意味する言葉として中井はメディアム、ミッテル二つの概念を対比させた。メディアムは媒介物というモノ、ミッテルは媒介するというコトであり、メディアムは本や理論や知識人で、ミッテルは対話や実践や大衆でもある。またメディアムが一方であるのに対してミッテルは双方向である。中井はメディアムからミッテルへと一貫して唱えつつ、晩年、そのことへの躊躇の念ももたず。中井のこの揺れをテキストの緻密な分析を通して追うと共にその現代的意義を探りたい。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE150	東アジアの思想と文化3	4	1.0	1・2					中国・韓国(朝鮮半島)・日本の東アジア地域は、古くから漢字文化圏、それにちなんで儒教文化圏とも呼ばれてきた。本授業では、東アジアにおける儒教思想、特に中国宋代の新儒学の勃興以降の展開と特徴を比較的な観点で考察することを目的とする。とりわけここでは、中国の新儒学と朝鮮時代の儒学思想を念頭に置いて、日本の江戸時代の儒学思想の展開と特徴を考察する。朝鮮時代の李退溪思想は、江戸中期の崎門学派や幕末・明治期の熊本実学派の思想形成に少なくない影響を与えた。しかし彼らの李退溪への尊崇とは裏腹に、実質的な思想展開の面においては独自の特性をあらわしている。主に山崎闇斎や佐藤直方などの崎門学派の文献を講読しながら、中国儒学また李退溪に代表される朝鮮儒学とは異なる日本思想の営為の特徴を考察する。	2020年度開講せず。
OBBE151	東アジアの思想と文化4	4	1.0	1・2	秋AB	火2		巖 錫仁	中国・韓国(朝鮮半島)・日本の東アジア地域は、古くから漢字文化圏、それにちなんで儒教文化圏とも呼ばれてきた。本授業では、東アジアにおける儒教思想、特に中国宋代の新儒学の勃興以降の展開と特徴を比較的な観点で考察することを目的とする。とりわけここでは、日本の幕末・明治期の儒学思想の展開と特徴を考察する。主に大塚退野、横井小楠、元田永孚といった熊本実学派の文献を講読しながら、大勢の西洋文明の流れの中で朱子学(退溪学)的な儒教の復活を唱える、その時代的意義を当時の中国、韓国の儒学界との比較において考察する。	西暦偶数年度開講。
OBBE152	日本文化と経済思想2	2	1.0	1 - 3					日本神話のなかに分権的社会経済を支える自由主義の伝統を見出すことをめざす。新羅王子・天日槍にはじまる系譜の復元、神功・応神像の変遷、道照の偉業、日本における自由主義の誕生、アマテラスと天岩戸神話のなりたち、スサノオと出雲神話のなりたち、神武東征のなりたち、といった論点について、拙著「記紀皇統譜の女系原理：天日槍(=天彦火)王家の復元」 http://doi.org/10.15068/00137842 、「日本神話にみる自由主義のなりたち」 http://doi.org/10.15068/00137840 をテキストとして検討する。	02DMK03と同一。 2020年度開講せず。
OBBE153	日本文化と経済思想3	2	1.0	1 - 3	秋AB	月5		平山 朝治	天皇制のなかに分権的社会経済を支える自由主義の伝統を見出すことをめざす。女系原理と女帝の進化、一休の恋人、讓位慣行進化論、長屋王の聖徳太子、光明皇后と鑑真的聖徳太子、室町の十字架―足利義嗣と一休宗純、水戸学と自由の伝統、といった論点について、『平山朝治著作集 第5巻 天皇制を読み解く』(中央経済社、2009年)や、拙著書評論文「水戸学に自由の伝統を発掘 吉田俊純著『水戸学の研究：明治維新史の再検討』(明石書店、二〇一六年五月)」(http://hdl.handle.net/2241/00146873)をテキストとして検討する。	西暦偶数年度開講。 02DMR07と同一。
OBBE200	比較日本文学論1A	4	1.0	1 - 3					近代以降の日本の文学を研究対象として取り扱う際、海外の文化や文学との交流や影響関係を考えることは大変重要である。本授業は、比較文学の手法を用いて、日本近・現代文学の問題点を考察し、履修者が当該分野の学術論文を準備することを目的とする。日本の近・現代文学を比較文学的視野から扱う、多言語のテキストの精読による実証研究や、ジェンダー理論・ポストコロナ理論などを用いたテキスト研究に関する研究の実践・指導を行い、当該分野についての博士論文の指導を行う。	2020年度開講せず。
OBBE201	比較日本文学論1B	4	1.0	1 - 3					近代以降の日本の文学を研究対象として取り扱う際、海外の文化や文学との交流や影響関係を考えることは大変重要である。本授業は、比較文学の手法を用いて、日本近・現代文学の問題点を考察し、履修者が当該分野の学術論文を作成・発表することを目的とする。日本の近・現代文学を比較文学的視野から扱う、多言語のテキストの精読による実証研究や、ジェンダー理論・ポストコロナ理論などを用いたテキスト研究に関する研究の実践・指導を行い、当該分野についての博士論文の指導を行う。「比較日本文学論3A」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE202	比較日本文学論2A	4	1.0	1 - 3	春AB	火4		平石 典子	近代以降の日本の文学を研究対象として取り扱う際、海外の文化や文学との交流や影響関係を考えることは大変重要である。本授業は、比較文学の手法を用いて、日本近・現代文学の問題点を考察し、履修者が当該分野の学術論文を準備することを目的とする。日本の近・現代文学を比較文学的視野から扱う、多言語のテキストの精読による実証研究や、ジェンダー理論・翻訳理論などを用いたテキスト研究に関する研究の実践・指導を行い、当該分野についての博士論文の指導を行う。「比較日本文学論3A, 3B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。
OBBE203	比較日本文学論2B	4	1.0	1 - 3	秋AB	火4		平石 典子	近代以降の日本の文学を研究対象として取り扱う際、海外の文化や文学との交流や影響関係を考えることは大変重要である。本授業は、比較文学の手法を用いて、日本近・現代文学の問題点を考察し、履修者が当該分野の学術論文を作成・発表することを目的とする。日本の近・現代文学を比較文学的視野から扱う、多言語のテキストの精読による実証研究や、ジェンダー理論・翻訳理論などを用いたテキスト研究に関する研究の実践・指導を行い、当該分野についての博士論文の指導を行う。「比較日本文学論3A, 3B, 4A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。
OBBE204	日本文芸・文化研究1A	4	1.0	1 - 3					世界的にみても、ある文学作品が発生するのは、その国家・民族の文化活動の一環であることはいうまでもないことである。本講義では日本文学古典作品について文学史の基本的事項をふまえながらカルチュラルスタディーズの手法を応用しつつ、受講する大学院生の研究対象に即して、研究の指導を適宜発表の形式も交えながら行っていく。	2020年度開講せず。
OBBE205	日本文芸・文化研究1B	4	1.0	1 - 3					世界的にみても、ある文学作品が発生するのは、その国家・民族の文化活動の一環であることはいうまでもないことである。本講義では日本文学近代作品について文学史の基本的事項をふまえながらカルチュラルスタディーズの手法を応用しつつ、受講する大学院生の研究対象に即して、研究の指導を適宜発表の形式も交えながら行っていく。「日本文芸・文化研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。
OBBE206	日本文芸・文化研究2A	4	1.0	1 - 3	春AB	月6		石塚 修	世界的にみても、ある文学作品が発生するのは、その国家・民族の文化活動の一環であることはいうまでもないことである。本講義では日本文学古典作品について文学史の基本的事項をふまえながらカルチュラルスタディーズの手法を応用しつつ、受講する大学院生の研究対象に即して、研究の指導を適宜発表の形式も交えながら行っていく。「日本文芸・文化研究1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。
OBBE207	日本文芸・文化研究2B	4	1.0	1 - 3	秋AB	月6		石塚 修	世界的にみても、ある文学作品が発生するのは、その国家・民族の文化活動の一環であることはいうまでもないことである。本講義では日本文学の近代作品について文学史の基本的事項をふまえながらカルチュラルスタディーズの手法を応用しつつ、受講する大学院生の研究対象に即して、研究の指導を適宜発表の形式も交えながら行っていく。「日本文芸・文化研究1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。
OBBE300	社会情報論1	4	1.0	1 - 3	春AB	火5		海後 宗男	社会関係資本の形成過程とインターネットの利用の関連性、利用者、コミュニティ、社会への効果を学習する。情報通信、コミュニティ、地域振興、地方自治という視点から考える。この授業では、指定された文献を図書のデータベースよりダウンロードし、授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。	西暦偶数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE301	社会情報論2		4	1.0	1 - 3				社会関係資本の形成過程とインターネットの利用の関連性、利用者、コミュニティ、社会への効果を学習する。情報通信、コミュニティ、地域振興、地方自治という視点から考える。この授業では、指定された文献を図書のデータベースよりダウンロードし、授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。「社会情報論1」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。
OBBE302	コミュニケーションの人類学1A		2	1.0	1 - 3				文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。	02DMW41と同一。 2020年度開講せず。
OBBE303	コミュニケーションの人類学1B		2	1.0	1 - 3				文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。「コミュニケーションの人類学1A」とは異なるトピックスを扱う。	02DMW42と同一。 2020年度開講せず。
OBBE304	コミュニケーションの人類学2A		2	1.0	1 - 3	春AB	木4	井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。「コミュニケーションの人類学1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 02DMW43と同一。
OBBE305	コミュニケーションの人類学2B		2	1.0	1 - 3	秋AB	木4	井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。「コミュニケーションの人類学1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 02DMW44と同一。
OBBE306	相互行為分析研究1A		2	1.0	1 - 3				社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」において、最も重要な分析概念の一つである「行為形成(action formation)」に関連する主要文献を精読し、議論することによって正確な理解を深める。また、各論文における記述や主張が、実際の日本語における社会的行為の産出と理解についての記述にどのように適用可能かを検討する。これらの作業を通して、社会的行為を産出し、理解するというのはいかなることかという根源的問いに対する洞察を深める。	02DMW37と同一。 2020年度開講せず。
OBBE307	相互行為分析研究1B		2	1.0	1 - 3				社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」の理論的背景・視点・方法論的意義等について、重要文献を中心に精読し、議論することによって正確な理解を深める。また、その理解を踏まえた上で、モデルとなる先行研究論文を具体的に検討することを通して、会話分析的研究として論文を作成する際のポイントについて学ぶ。さらに、受講生自身が執筆中の研究論文について、相互に検討・討議し、質の高い投稿論文に仕上げる技術を身につける。	02DMW38と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE308	相互行為分析研究2A	2	1.0	1 - 3	春AB	金5		高木 智世	社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」において重要な分析概念を提示した基本文献を精読し、議論することによって、会話分析の手法について正確な理解を深める。また、各論文における記述や主張が、実際の日本語における社会的行為の産出と理解についての記述にどのように適用可能かを検討する。これらの作業を通して、社会的行為を産出し、理解するというのはいかなることかという根源的問いに対する洞察を深める。「相互行為分析研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。02DMW39と同一。
OBBE309	相互行為分析研究2B	2	1.0	1 - 3	秋AB	金5		高木 智世	社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」の理論的背景・視点・方法論的意義等について、重要文献を中心に精読し、議論することによって正確な理解を深める。また、その理解を踏まえた上で、モデルとなる先行研究論文を具体的に検討することを通して、会話分析的研究として論文を作成する際のポイントについて学ぶ。さらに、受講生自身が執筆中の研究論文について、相互に検討・討議し、質の高い投稿論文に仕上げる技術を身につける。「相互行為分析研究1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。02DMW40と同一。
OBBE310	メディア思想と日本社会3	4	1.0	1 - 3					本授業はメディア研究の生成とその歴史的社会的背景を考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究にはそのような歴史的社会的背景が色濃く影響している。本授業では、メディア研究やその中の種々の理論や批評がいかにして生まれたのかを歴史的社会的連関の中で考察し、そこから透過できる日本社会とメディア思想についての理解を深めることを目的としている。授業は適切なメディア研究と近現代日本史に関するテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつうじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。	2020年度開講せず。
OBBE311	メディア思想と日本社会4	4	1.0	1 - 3					本授業はメディア研究の生成とその歴史的社会的背景を考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究にはそのような歴史的社会的背景が色濃く影響している。本授業では、メディア研究やその中の種々の理論や批評がいかにして生まれたのかを歴史的社会的連関の中で考察し、そこから透過できる日本社会とメディア思想についての理解を深めることを目的としている。授業は適切なメディア研究と近現代日本史に関するテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつうじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。「メディア思想と日本社会3」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。
OBBE312	比較メディア思想3	4	1.0	1 - 3	春AB	金6		白戸 健一郎	本授業は、メディア研究の生成とその歴史的社会的背景について、新聞・映画・ラジオ・テレビなどの各メディアとの比較メディア史的観点及び欧米やアジア諸国と日本との国際比較の観点から、考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究やメディアを考察するメディア思想にはそのような社会現象が強く刻印されている。メディア研究やメディア思想への考察から、社会や政治や文化の国ごとの特質や共通性について理解できるようになる。授業はメディア史やメディア思想に関する適切なテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつうじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。	西暦偶数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE313	比較メディア思想4		4	1 - 3	秋C	火4,5		白戸 健一郎	本授業は、メディア研究の生成とその歴史的社会的背景について、新聞・映画・ラジオ・テレビなどの各メディアとの比較メディア史的観点及び欧米やアジア諸国と日本との国際比較の観点から、考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究やメディアを考察するメディア思想にはそのような社会現象が強く刻印されている。メディア研究やメディア思想への考察から、社会や政治や文化の国ごとの特質や共通性について理解できるようになる。授業はメディア史やメディア思想に関する適切なテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつづじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。「比較メディア思想3」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。
OBBE400	日本政治と市民社会3		2	1 - 3	春AB	金3		山本 英弘	日本の政治や市民社会に関する日本語の文献を講読し、その内容を深く理解するとともに、受講者自身の研究に活かしていく。そのため、受講者の研究関心に応じた文献を精読したうえで、課題設定、研究方法、議論の含意等について批判的に検討する。	西暦偶数年度開講。 02DMP18と同一。
OBBE401	日本政治と市民社会4		2	1 - 3					「日本政治と市民社会3」に引き続き、日本の政治や市民社会に関する日本語の文献（「日本政治と市民社会3」では取り上げなかったもの）を講読し、その内容を深く理解するとともに、受講者自身の研究に活かしていく。そのため、受講者の研究関心に応じた文献を精読したうえで、課題設定、研究方法、議論の含意等について批判的に検討する。	02DMP21と同一。 2020年度開講せず。
OBBE402	Japan's Politics and Civil Society 3		2	1 - 3	秋AB	金3		山本 英弘	日本の政治や市民社会に関する英語の文献を講読し、その内容を深く理解するとともに、受講者自身の研究に活かしていく。そのため、受講者の研究関心に応じた文献を精読したうえで、課題設定、研究方法、議論の含意等について批判的に検討する。	西暦偶数年度開講。 02DMP19と同一。
OBBE403	Japan's Politics and Civil Society 4		2	1 - 3					“Japan's Politics and Civil Society 3”に引き続き、日本の政治や市民社会に関する英語の文献（“Japan's Politics and Civil Society 3”では取り上げなかったもの）を講読し、その内容を深く理解するとともに、受講者自身の研究に活かしていく。そのため、受講者の研究関心に応じた文献を精読したうえで、課題設定、研究方法、議論の含意等について批判的に検討する。	02DMP20と同一。 2020年度開講せず。
OBBE404	比較政治3		2	1 - 3	春AB	水1		関 能徳	本科目の目的は、政治学のトップ・ジャーナルに掲載された論文（「比較政治4」、「Comparative Politics 3」、「Comparative Politics 4」で取り上げなかったもの）の講読を通して、比較政治の理論や方法に関する理解を深め、受講者が博士論文の着想を得ることにある。受講者は自身の論文や研究計画を報告し、他の参加者や担当教員との議論を通して、論文の質を向上させることが期待される。	西暦偶数年度開講。 02DME67と同一。
OBBE405	比較政治4		2	1 - 3					本科目の目的は、政治学のトップ・ジャーナルに掲載された論文（「比較政治3」、「Comparative Politics 3」、「Comparative Politics 4」で取り上げなかったもの）の講読を通して、比較政治の理論や方法に関する理解を深め、受講者が査読付学術誌に出版できる能力を身に付けることにある。受講者は自身の論文を報告し、他の参加者や担当教員との議論を通して、論文の質を向上させることが期待される。	02DME70と同一。 2020年度開講せず。
OBBE406	Comparative Politics 3		2	1 - 3					本科目の目的は、政治学のトップ・ジャーナルに掲載された論文（「比較政治3」、「比較政治4」、「Comparative Politics 4」で取り上げなかったもの）の講読を通して、比較政治の理論や方法に関する理解を深め、受講者が博士論文の着想を得ることにある。受講者は自身の論文や研究計画を報告し、他の参加者との議論を通して、論文の質を向上させることが期待される。	2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE407	Comparative Politics 4	2	1.0	1 - 3	秋AB	水1		関 能徳	本科目の目的は、政治学のトップ・ジャーナルに掲載された論文(「比較政治3」、「比較政治4」、「Comparative Politics 3」で取り上げなかったもの)の講読を通して、比較政治の理論や方法に関する理解を深め、受講者が査読付学術誌に出版できる能力を身に付けることにある。受講者は自身の論文を報告し、他の参加者との議論を通して、論文の質を向上させることが期待される。	西暦偶数年度開講。02DME68と同一。
OBBE408	Foreign Relations of Japan 3A	2	1.0	1 - 3					本講義は現代日本の対外政策の形成とその歴史的背景を、政治及び安全保障面を中心に、議論するものである。更に、現代日本の対外関係に関する歴史的な研究の方法論についても適宜に議論する。本講義は戦前期(1890年~1945年)を対象とする。講義は原則的に英語で行われる。教科書や各種資料も英語の出版物を中心に選定する。講義中、活発な議論を強く奨励する。なお、本講義を履修するには「Foreign Relations of Japan 3B」も併せて履修することが必要である。	2020年度開講せず。
OBBE409	Foreign Relations of Japan 3B	2	1.0	1 - 3	春AB	火3		潘 亮	本講義は現代日本の対外政策の形成とその歴史的背景を、政治及び安全保障面を中心に、議論するものである。更に、現代日本の対外関係に関する歴史的な研究の方法論についても適宜に議論する。本講義は戦前期(1890年~1945年)を対象とする。講義は原則的に英語で行われる。教科書や各種資料も英語の出版物を中心に選定する。講義中、活発な議論を強く奨励する。なお、本講義を履修するには「Foreign Relations of Japan 3A」も併せて履修することが必要である。	西暦偶数年度開講。
OBBE410	Foreign Relations of Japan 4A	2	1.0	1 - 3					本講義は現代日本の対外政策の形成とその歴史的背景を、政治及び安全保障面を中心に、議論するものである。更に、現代日本の対外関係に関する歴史的な研究の方法論についても適宜に議論する。本講義は第二次世界大戦終戦後の時代を対象とする。講義は原則的に英語で行われる。教科書や各種資料も英語の出版物を中心に選定する。講義中、活発な議論を強く奨励する。なお、本講義を履修するには「Foreign Relations of Japan 4B」も併せて履修することが必要である。	2020年度開講せず。
OBBE411	Foreign Relations of Japan 4B	2	1.0	1 - 3	春AB	火4		潘 亮	本講義は現代日本の対外政策の形成とその歴史的背景を、政治及び安全保障面を中心に、議論するものである。更に、現代日本の対外関係に関する歴史的な研究の方法論についても適宜に議論する。本講義は第二次世界大戦終戦後の時代を対象とする。講義は原則的に英語で行われる。教科書や各種資料も英語の出版物を中心に選定する。講義中、活発な議論を強く奨励する。なお、本講義を履修するには「Foreign Relations of Japan 4A」も併せて履修することが必要である。	西暦偶数年度開講。
OBBE412	International Relations 3A	2	1.0	1 - 3					本科目の目的は、様々な文献を通じ国際関係の理論やアプローチに関する理解を深め、受講者の社会科学的分析能力をさらに身につけることにある。また、受講者は関心のある研究対象について報告をすることを通じ、分析を進める上で核となる方法論や議論の組み立て方について学ぶ。	02DMP05と同一。2020年度開講せず。
OBBE413	International Relations 3B	2	1.0	1 - 3					本科目の目的は、様々な文献を通じ国際関係の理論やアプローチに関する理解を深め、受講者の社会科学的分析能力をさらに身につけることにある。また、受講者が関心のある研究対象についての報告、そして参加者との議論を通して、分析を進める上で核となる方法論や議論の組み立て方について共に考える。受講者は、他の学生の論文に対して、建設的なコメントをすることが求められる。	02DMQ33と同一。2020年度開講せず。
OBBE414	International Relations 4A	2	1.0	1 - 3	秋AB	木3		大友 貴史	本科目の目的は、様々な文献を通じ国際関係の理論やアプローチに関する理解を深め、受講者の社会科学的分析能力をさらに身につけることにある。関心のある研究対象についての報告、そして参加者との議論を通じ、また、完成度の高い論文や著書を読み込むことを通じ、核となる方法論や議論の組み立て方を学び自身のアーギュメントを再考し、改善する。	西暦偶数年度開講。02DMP06と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE415	International Relations 4B	2	1.0	1 - 3	春AB	火4		大友 貴史	本科目の目的は、様々な文献を通し国際関係の理論やアプローチに関する理解を深め、受講者の社会科学的分析能力をさらに身につけることにある。また、受講者は関心のある研究対象についての報告、そして参加者との討論を通し、分析を進める上で核となるアイデアをより効果的に伝える訓練を行う。	西暦偶数年度開講。02DMQ34と同一。
OBBE500	教育政策論1	2	1.0	1 - 3					近代国民国家の形成過程における公的教育制度の発展について考察する。具体的事例として、18世紀から19世紀にかけて発展したドイツ(プロシア)と、フランス革命以降のフランス、並びに幕末から明治初期の日本の事例を中心に扱う。これら事例については、ナショナリズムと教育・国民アイデンティティの形成と教育・近代工業化と教育という3つの視点から検討する。さらに、近代以降の日本と諸外国における社会変遷と教育政策の役割の相互関係についても議論する。	2020年度開講せず。
OBBE501	教育政策論2	2	1.0	1 - 3	春AB	火2		柴田 政子	教育政策論1で習得した内容をもとに、理論から具体的事例に議論と考察を発展させる。具体例は、履修者の研究テーマおよび関心事例を中心に、日本及び諸外国の事例(「教育政策1」で取り上げなかったもの)から選択する。教育政策論1では、特に教育史に重点をおいたが、教育政策論2ではより現代に近い時代に視点を移し、国家の経済的発展と教育・多様化する社会と教育というテーマに目を転じ、21世紀のグローバル社会における教育政策の在り方について検討する。扱う国や地域も日本やヨーロッパに限らず、発展途上国も含めた広く世界の国々に視野を広げる。	西暦偶数年度開講。
OBBE502	Educational Policy 1	2	1.0	1 - 3					近代国民国家の形成過程における公的教育制度の発展について考察する。具体的事例として、18世紀から19世紀にかけて発展したドイツ(プロシア)と、フランス革命以降のフランス、並びに幕末から明治初期の日本の事例(「教育政策1」「同2」で取り上げなかったもの)を中心に扱う。これら事例については、ナショナリズムと教育・国民アイデンティティの形成と教育・近代工業化と教育という3つの視点から検討する。さらに、近代以降の日本と諸外国における社会変遷と教育政策の役割の相互関係についても議論する。	2020年度開講せず。
OBBE503	Educational Policy 2	2	1.0	1 - 3	秋AB	火2		柴田 政子	“Educational Policy 1”で習得した内容をもとに、理論から具体的事例に議論と考察を発展させる。具体例は、履修者の研究テーマおよび関心事例を中心に、日本及び諸外国の事例(「教育政策1」「同2」「Educational Policy 1」で取り上げなかったもの)から選択する。“Educational Policy 1”では、特に教育史に重点をおいたが、“Educational Policy 2”ではより現代に近い時代に視点を移し、国家の経済的発展と教育・多様化する社会と教育というテーマに目を転じ、21世紀のグローバル社会における教育政策の在り方について検討する。扱う国や地域も日本やヨーロッパに限らず、発展途上国も含めた広く世界の国々に視野を広げる。	西暦偶数年度開講。
OBBE504	計量分析3A	1	1.0	1 - 3	春AB	月5		崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、分析に用いるデータの調査方法と、計量分析ツールを正しく使うための基礎統計の概念について講義する。講義内容は、計量分析の概要、基礎集計(度数分布)、記述統計(代表値、散布度)など統計の基本概念を理解し、計量分析4Aを勉強するための土台作りを行う。また、これらの知識を取得している場合は、多変量分析の基礎部分(各種検定、相関分析、回帰分析、カテゴリカル回帰分析、ロジスティック分析)で、柔軟に講義する。	02DME14と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE505	計量分析3B	2	1.0	1 - 3	春AB	月6		崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、計量分析3Aに相当する知識(基礎集計、記述統計)をベースに、分析に用いる計量分析ツールの正しい使い方を講義する。講義内容は、統計分析用ソフトSPSS(場合によっては、エクセルを並行)を用いて、一連の分析プロセスや、SPSSの基本操作(データ加工・整理・基本集計など)を学び、計量分析4Bでの高度な分析を行うための土台作りを行う。	02DME16と同一。
OBBE506	計量分析4A	1	1.0	1 - 3	春AB	木5		崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、分析に用いるデータの調査方法と、計量分析ツールを正しく使うための基礎統計の概念について講義する。講義内容は、計量分析3Aで学んだ知識(基礎集計、記述統計)を土台とし、関連分析(相関分析、回帰分析)を中心とした、計量分析の入門的な概念を理解し、発展させる。また、これらの知識を取得している場合は、多変量分析の高度な部分(主成分分析、因子分析、判別分析、クラスタ分析、テキスト分析など)で、柔軟に講義する。	02DME15と同一。
OBBE507	計量分析4B	2	1.0	1 - 3	春AB	木6		崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、計量分析4Aに相当する知識(相関分析、回帰分析)をベースに、分析に用いる計量分析ツールの正しい使い方を講義する。講義内容は、統計分析用ソフトSPSS(場合によっては、エクセルを並行)を用いて、計量分析3Bで学んだSPSSの基本操作(データ加工・整理・基本集計など)を土台とし、高度な分析(相関分析、回帰分析、因子分析、各種検定など)を行う。	02DME17と同一。
OBBE600	応用ミクロ経済学2	2	1.0	1 - 3					ミクロ経済学と非協力ゲーム理論の主に数理的側面の基礎と発展に関する研究テーマの研究の指導をする。この準備のために位相数学もしくは測度論のテキストを輪読する。これらの数学の学習と並行して、ゲーム理論や数理経済学等の専門雑誌から、履修者の興味に沿った最新研究論文を抜粋して精読を行い、履修者各自の研究テーマを絞り込んでいく。取り上げるトピックには次のようなものがある。不完備情報ゲームの基礎研究(common knowledge と universal belief spaces), 不完全観測を伴う繰り返しゲーム理論の研究、ネットワーク形成ゲームの最新の展開など。	2020年度開講せず。
OBBE601	応用ミクロ経済学3	2	1.0	1 - 3					非協力ゲーム理論を社会・経済現象のミクロ的側面に応用して分析している研究テーマの研究の指導をする。その準備のために特にオークション理論、コンテスト理論もしくはマッチング理論の研究書レベルのテキストを輪読する。これらの学習と並行して、経済学、政治学もしくはゲーム理論等の専門雑誌から、これらの応用分野の研究論文を抜粋して精読する。これによって履修者の興味に即した研究論文のアイデアの醸成と応用性に富んだモデル構築技術の習得をうながし、博士論文作成の基礎力を養う。	2020年度開講せず。
OBBE602	応用ゲーム理論2	2	1.0	1 - 3	春AB	応談		福住 多一	協力ゲーム理論に関する専門的な最新研究論文や研究書を輪読する。必要に応じて位相数学や凸解析の数学的トレーニングとして、これらのテキストの輪読も行う。協力ゲームの様々な解の公理的特徴付けだけでなく、非協力ゲーム理論に基づく戦略的観点から、協力ゲームの様々な解概念の性質を検討する(ナッシュ・プログラム)研究も積極的に扱う。さらにこれらの理論的知見を、履修者が関心を持つ様々な社会・経済現象に応用する手法を検討しながら研究の指導を行う。	西暦偶数年度開講。 02DME61と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE603	応用ゲーム理論3	2	1.0	1 - 3	秋AB	応談		福住 多一	進化ゲーム理論及びプレイヤーの学習モデル、そしてこれらに基づいた非協力ゲーム理論の均衡選択問題に関する研究の指導を行う。受講生の理解の水準に合わせて、これらの研究書もしくは必要となる確率過程や微分方程式のテキストの輪読を行う。これと並行して最新の研究論文を精読する。具体的なテーマは、ポテンシャル・ゲーム、確率進化ゲーム、選好進化の理論、言語の進化モデル分析などを予定している。これらの最新理論の経済学や政治学への応用研究論文も扱い、受講生の関心に沿った研究テーマ設定をして論文指導を行う。	西暦偶数年度開講。 02DME62と同一。
OBBE604	環境とマクロ経済学3A	2	1.0	1 - 3					環境経済学の標準的なテキストである洋書を輪読する。受講者の報告と議論を通じて環境問題について経済学的視点から取り組むための理論を習得し、環境政策および、その課題を検討する。持続可能な経済成長の分析に必要な、入門的なマクロ経済動学理論も学習する。ミクロ的な個々の経済主体の意思決定が環境や資源量の変化、気候変動により、どのようにマクロ的な一國全体あるいは国際社会・経済に影響を与えるかについての分析能力の向上を目指す。	2020年度開講せず。
OBBE605	環境とマクロ経済学3B	2	1.0	1 - 3					主に受講者が選んだ環境経済学の学術論文の講読の形式で授業を進める。受講者の状況に応じて環境経済学の標準的なテキストである洋書の輪読も含む。受講者の報告・議論を通じて環境問題について経済学的視点から取り組むための理論・実証分析の方法への理解を深める。ミクロ的な個々の経済主体の意思決定が環境や資源量の変化、気候変動により、どのようにマクロ的な一國全体あるいは国際社会・経済に影響を与えるかについての分析能力と論文作成の基礎能力の向上を目指す。	2020年度開講せず。
OBBE606	環境とマクロ経済学4A	2	1.0	1 - 3	春AB	火5		生藤 昌子	資源・エネルギー経済学の標準的なテキストである洋書を輪読する。受講者の報告・議論を通じて資源・エネルギー問題について経済学的視点から取り組むための理論を習得し、環境政策および、その課題を検討する。持続可能な経済成長の分析に必要な、入門的なマクロ経済動学理論も学習する。ミクロ的な個々の経済主体の意思決定が資源量の変化や気候変動により、どのようにマクロ的な一國全体あるいは国際社会・経済に影響を与えるかについての分析能力の向上を目指す。	西暦偶数年度開講。 02DME65と同一。
OBBE607	環境とマクロ経済学4B	2	1.0	1 - 3	秋A	火5,6		生藤 昌子	主に受講者が選んだ資源・エネルギー経済学の学術論文の講読の形式で授業を進める。受講者の状況に応じて資源・エネルギー経済学の標準的なテキストである洋書の輪読も含む。受講者の報告・議論を通じて資源・エネルギー問題について経済学的視点から取り組むための理論・実証分析の方法への理解を深める。ミクロ的な個々の経済主体の意思決定が資源量の変化や気候変動により、どのようにマクロ的な一國全体あるいは国際社会・経済に影響を与えるかについての分析能力と論文作成の基礎能力の向上を目指す。	西暦偶数年度開講。 02DME66と同一。
OBBE608	金融3A	2	1.0	1 - 3					この講義の目的は、金融論の様々な論点を19世紀から現在までの日本経済の発展を事例として学ぶことである。本講義では、特に、債権・債務関係、貨幣および決済の視点を中心に、各種の金融問題を整理する。日本の銀行システムの歴史的形成過程や機能の議論について学ぶ。例えば、高度成長期、バブル経済の崩壊、非伝統的金融政策について概観する。頼母子講や模合等の民間金融の世界についても触れる。参加者には、授業で扱った金融問題のいずれかの論点について、日本の歴史的経験と他国の歴史的経験を比較する形で検討する課題が与えられる。博士論文として金融と関わる論点を検討する参加者には、博士論文の一章として成立するような形で、期末レポートをまとめてもらう。	02DME20と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE609	金融3B		2	1.0	1 - 3				この講義の目的は、金融論の様々な論点を19世紀から現在までの日本経済の発展を事例として学ぶことである。本講義では、特に、債権・債務関係と決済の視点を中心に、各種の金融問題を整理する。金本位制やブレンツェン体制などの国際金融制度あるいは、大恐慌やアジア金融危機等の国際金融危機について一通り学ぶ。参加者には、授業で扱った金融問題のいずれかの論点について、日本の歴史的経験と他国の歴史的経験を比較する形で検討する課題が与えられる。博士論文として金融と関わる論点を検討する参加者には、博士論文の一章として成立するような形で、期末レポートをまとめてもらう。	02DME21と同一。 2020年度開講せず。
OBBE610	金融4A		2	1.0	1 - 3	春AB	金4	高橋 秀直	この講義の目的は、金融論の様々な論点を19世紀から現在までの日本経済の発展を事例として学ぶことである。本講義では、特に、債権・債務関係、貨幣および決済の視点を中心に、各種の金融問題を整理する。日本の銀行システムの歴史的形成過程や機能の議論について学ぶ。例えば、高度成長期、バブル経済の崩壊、非伝統的金融政策について概観する。頼母子講や模合等の民間金融の世界についても触れる。参加者には、授業で扱った金融問題のいずれかの論点について、日本の歴史的経験と他国の歴史的経験を比較する形で検討する課題が与えられる。博士論文として金融と関わる論点を検討する参加者には、博士論文の一章として成立するような形で、期末レポートをまとめてもらう。「金融3A」とは異なるトピックスを扱う。	02DME22と同一。
OBBE611	金融4B		2	1.0	1 - 3	秋AB	月5	高橋 秀直	この講義の目的は、金融論の様々な論点を19世紀から現在までの日本経済の発展を事例として学ぶことである。本講義では、特に、債権・債務関係と決済の視点を中心に、各種の金融問題を整理する。金本位制やブレンツェン体制などの国際金融制度あるいは、大恐慌やアジア金融危機等の国際金融危機について一通り学ぶ。参加者には、授業で扱った金融問題のいずれかの論点について、日本の歴史的経験と他国の歴史的経験を比較する形で検討する課題が与えられる。博士論文として金融と関わる論点を検討する参加者には、博士論文の一章として成立するような形で、期末レポートをまとめてもらう。「金融3B」とは異なるトピックスを扱う。	02DME23と同一。
OBBE612	世界経済史3		2	1.0	1 - 3	春AB	応談	田中 洋子	グローバル経済の展開を歴史的にみる観点から、各国の経済発展とそれを支える社会経済的基盤の形成と変容について、少人数ないし個別面談の形で論文準備報告を行う。報告では、博士論文の一章分、ないし投稿論文、あるいは学会報告プロシーディングス等のフルペーパーを提出することを原則とする。これにもとづいてPPTで報告し、口頭報告、意見や質問に対する応答演習を行いつつ、コメントや全体での議論を通じて論文構成の長所および問題点についての認識を深める。論文の問題意識や論理構成、資料分析等について議論を通じてチェックするとともに、執筆のスケジューリング、国内外での学会報告の計画準備を確認しつつ、論文を一章ずつ書き上げていく。	西暦偶数年度開講。
OBBE613	世界経済史4		2	1.0	1 - 3				グローバル経済の展開を歴史的にみる観点から、各国の経済発展とそれを支える社会経済的基盤の形成と変容について、少人数ないし個別面談の形で論文準備報告を行う。報告では、博士論文の一章分、ないし投稿論文、あるいは学会報告プロシーディングス等のフルペーパーを提出することを原則とする。これにもとづいてPPTで報告し、口頭報告、意見や質問に対する応答演習を行いつつ、コメントや全体での議論を通じて論文構成の長所および問題点についての認識を深める。論文の問題意識や論理構成、資料分析等について議論を通じてチェックするとともに、執筆のスケジューリング、国内外での学会報告の計画準備を確認しつつ、論文を一章ずつ書き上げていく。	2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE614	Comparative Labor Studies 3	2	1.0	1 - 3	秋AB	応談		田中 洋子	経済活動の基盤となる労働関係について比較歴史分析の視点から、少人数ないし個別面談の形で論文準備報告を行う。報告では、博士論文の一章分、ないし投稿論文、あるいは学会報告プロシーディングス等のフルペーパーを提出することを原則とする。これにもとづいてPPTで報告し、口頭報告、意見や質問に対する応答演習を行いつつ、コメントや全体での議論を通じて論文構成の長所および問題点についての認識を深める。論文の問題意識や論理構成、資料分析等について議論を通じてチェックするとともに、執筆のスケジュールリング、国内外での学会報告の計画準備を確認しつつ、論文を一章ずつ書き上げていく。	西暦偶数年度開講。 02DMQ19と同一。
OBBE615	Comparative Labor Studies 4	2	1.0	1 - 3					経済活動の基盤となる労働関係について比較歴史分析の視点から、少人数ないし個別面談の形で論文準備報告を行う。報告では、博士論文の一章分、ないし投稿論文、あるいは学会報告プロシーディングス等のフルペーパーを提出することを原則とする。これにもとづいてPPTで報告し、口頭報告、意見や質問に対する応答演習を行いつつ、コメントや全体での議論を通じて論文構成の長所および問題点についての認識を深める。論文の問題意識や論理構成、資料分析等について議論を通じてチェックするとともに、執筆のスケジュールリング、国内外での学会報告の計画準備を確認しつつ、論文を一章ずつ書き上げていく。	02DMQ20と同一。 2020年度開講せず。
OBBE616	地域経済・経営史3A	2	1.0	1 - 3					本授業はグローバル競争時代の地域企業経営およびその課題について専門的に研究する前提として、グローバル競争以前の経営・事業展開を歴史的に検討することを目標とする。その場合、本授業では、経済の発展に貢献することを強く意識した「地域貢献型企業」や、地域に存在する「ニッチ・トップ企業」、「研究開発重視型企業」、「自立志向型企業」などに着目し、その事業展開を歴史的に検討することを主なテーマとする。授業にあたっては、教員が着目する事例を予め提示し、その事例の重要点について説明する。それを踏まえ担当者が当該事例に関する調査結果を持ち寄り報告し、受講生全員による検討・討論を行うという形で授業を進める予定である。	02DME28と同一。 2020年度開講せず。
OBBE617	地域経済・経営史3B	2	1.0	1 - 3					本授業はグローバル競争時代における地域産業の衰退あるいは再生・活性化について専門的に研究する前提として、グローバル競争以前の地域産業の発展および産業集積の形成・展開について歴史的に検討することを目標とする。その場合、本授業では、地域経済の発展を支えてきた基軸産業の歴史的な変遷や地域内におけるキー・プレイヤーの変遷などに着目し、地域経済発展のダイナミズムを明らかにすることを主なテーマとする。授業にあたっては、教員が着目する事例を予め提示し、その事例の重要点について説明する。それを踏まえ担当者が当該事例に関する調査結果を持ち寄り報告し、受講生全員による検討・討論を行うという形で授業を進める予定である。	02DME29と同一。 2020年度開講せず。
OBBE618	地域経済・経営史4A	2	1.0	1 - 3	春AB	木1		平沢 照雄	本授業はグローバル競争下における地域企業経営および事業展開を、それ以前の展開と対比させつつ専門的に検討することを目標とする。特に本授業では、グローバル競争に適応しつつ持続的な企業成長を実現し、地域経済の発展に貢献しつつある企業に着目し、それらの企業が、グローバル競争のなかでどのような問題に直面し、どのような経営改革（「第2の創業」も含む）や新たな取り組みを展開しているのかについて具体的に検討することを主なテーマとする。授業にあたっては、教員が着目する事例を予め提示し、その事例の重要点について説明する。それを踏まえ担当者が当該事例に関する調査結果を持ち寄り報告し、受講生全員による検討・討論を行うという形で授業を進める予定である。	西暦偶数年度開講。 02DME30と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE619	地域経済・経営史4B		2	1.0	1 - 3	秋AB	木1	平沢 照雄	本授業はグローバル競争下における地域産業の衰退あるいは再生・活性化に関して、グローバル競争に突入する以前の地域産業あるいは産業集積の発展と対比させつつ専門的に検討することを目標とする。特に本授業では、グローバル競争下における産業集積の縮小や機能低下あるいは地域内の基軸産業の衰退に直面するなかで、新たに取り組みされている再生・活性化策やイノベーション・ダイナミズムと地域産業との関連などについて具体的に検討することを主なテーマとする。授業にあたっては、教員が着目する事例を予め提示し、その事例の重要点について説明する。それを踏まえ担当者が当該事例に関する調査結果を持ち寄り報告し、受講生全員による検討・討論を行うという形で授業を進める予定である。	西暦偶数年度開講。 02DME31と同一。
OBBE700	Informatics and Society 1		2	1.0	1 - 3	秋AB	火4	海後 宗男	この授業は英語で社会情報学やニューメディアに関する研究方法を学習する。実証研究における研究計画の立案、仮説や分析手法を学ぶ。この授業では、指定された文献を図書館のデータベースよりダウンロードし、授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。	西暦偶数年度開講。
OBBE701	Informatics and Society 2		2	1.0	1 - 3				この授業は英語で社会情報学やニューメディアに関する研究方法を学習する。実証研究における研究計画の立案、仮説や分析手法を学ぶ。この授業では、指定された文献を図書館のデータベースよりダウンロードし、授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。「Informatics and Society 1」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。
OBBE702	Global Society & Information 1		2	1.0	1 - 3				この授業の目的は、一般に世界における、特に日本と東南アジアにおける、情報化社会に関連する問題やトピックの概要を学生に提供することである。ソフトパワー、国家ブランディング、国家の情報セキュリティ・インフラストラクチャー、選択された国の間でのインターネットの自由や制限の比較など、現在の話題を探索する。	2020年度開講せず。
OBBE703	Global Society & Information 2		2	1.0	1 - 3				この授業の目的は、一般に世界における、特に日本と東南アジアにおける、情報化社会に関連する問題やトピックの概要を学生に提供することです。ソフトパワー、国家ブランディング、国家の情報セキュリティ・インフラストラクチャー、選択された国の間でのインターネットの自由や制限の比較など、現在の話題を探索します。「Global Society & Information1」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。
OBBE704	移民研究・国際人口移動論3		2	1.0	1 - 3				移民・難民など現代の国際人口移動に関する現状、理論、政策、ガバナンスについて、政治学・国際関係論を中心に学際的に考察する。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなうほか、時事的なケーススタディをもとに議論を深める。	02DMQ03と同一。 2020年度開講せず。
OBBE705	移民研究・国際人口移動論4		2	1.0	1 - 3	春AB	火5	明石 純一	移民・難民など現代の国際人口移動に関する現状、理論、政策、ガバナンスについて、社会学を中心に学際的に考察する。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなうほか、時事的なケーススタディをもとに議論を深める。	西暦偶数年度開講。
OBBE706	Migration and Multicultural Studies 3		2	1.0	1 - 3				移民・難民など現代の国際人口移動と日本社会の「多文化」化に関する現状、理論、政策、政治、ガバナンス、市場経済等について、政治学・国際関係論の観点・命題を中心に学際的な考察を加える。おもに、この分野における主要基本文献(英語)の精読と解題をおこなうほか、時事的なケーススタディをもとに議論を深める。	2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE707	Migration and Multicultural Studies 4	2	1.0	1 - 3	秋AB	火5		明石 純一	移民・難民など現代の国際人口移動と日本社会の「多文化」化に関する現状、理論、政策、政治、ガバナンス、市場経済等について、社会学の観点・命題を中心に学際的な考察を加える。おもに、この分野における主要基本文献(英語)の精読と解題をおこなうほか、時事的なケーススタディをもとに議論を深める。	西暦偶数年度開講。
OBBE708	法と市民社会3A	2	1.0	1 - 3					近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する。「法と市民社会1A, 1B, 2A, 2B」とは異なるトピックスを扱う。	02DME40と同一。 2020年度開講せず。
OBBE709	法と市民社会3B	2	1.0	1 - 3					近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する。「法と市民社会1A, 1B, 2A, 2B, 3A」とは異なるトピックスを扱う。	02DME41と同一。 2020年度開講せず。
OBBE710	法と市民社会4A	2	1.0	1 - 3	春AB	応談		根本 信義	近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する「法と市民社会1A, 1B, 2A, 2B, 3A, 3B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 02DME42と同一。
OBBE711	法と市民社会4B	2	1.0	1 - 3	秋AB	応談		根本 信義	近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する。「法と市民社会1A, 1B, 2A, 2B, 3A, 3B, 4A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 02DME43と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE712	法と現代社会3A	2	1.0	1 - 3					国家制度と法が時代的、地域的に限定された諸条件の下で生み出され展開されること、それにもかかわらずローマ法は日本を含む現代世界まで受け継がれるだけの普遍性を内包していたこと、を理解することができるようになることを目標とする。本演習では、ヨーロッパの法文化の基礎であり、これを受け継いだ日本の法文化の基礎の一部でもある、古代ローマの国家制度と法(一般にローマ法と呼ばれている)を題材とする。古代ローマの歴史・社会(法を含む)・文化に対する興味感心を喚起すると共に、ローマ法がいかなる法的紛争に対し、いかなる解決を与えてきたかを史料に基づいて検討するために、ローマ法が現代まで連続と受け継がれてきた経緯を概説した上で、ローマ法の内容を現代に伝えるラテン語史料、特に法学提要Institutionesの検討を中心に議論する。	02DME44と同一。 2020年度開講せず。
OBBE713	法と現代社会3B	2	1.0	1 - 3					国家制度と法が時代的、地域的に限定された諸条件の下で生み出され展開されること、それにもかかわらずローマ法は日本を含む現代世界まで受け継がれるだけの普遍性を内包していたこと、を理解することができるようになることを目標とする。本演習では、ヨーロッパの法文化の基礎であり、これを受け継いだ日本の法文化の基礎の一部でもある、古代ローマの国家制度と法(一般にローマ法と呼ばれている)を題材とする。古代ローマの歴史・社会(法を含む)・文化に対する興味感心を喚起すると共に、ローマ法がいかなる法的紛争に対し、いかなる解決を与えてきたかを史料に基づいて検討するために、ローマ法が現代まで連続と受け継がれてきた経緯を概説した上で、ローマ法の内容を現代に伝えるラテン語史料、特に学説彙纂Digestaの検討を中心に議論する。	02DME45と同一。 2020年度開講せず。
OBBE714	法と現代社会4A	2	1.0	1 - 3	春A	応談		宮坂 渉	国家制度と法が時代的、地域的に限定された諸条件の下で生み出され展開されること、それにもかかわらずローマ法は日本を含む現代世界まで受け継がれるだけの普遍性を内包していたこと、を理解することができるようになることを目標とする。本演習では、ヨーロッパの法文化の基礎であり、これを受け継いだ日本の法文化の基礎の一部でもある、古代ローマの国家制度と法(一般にローマ法と呼ばれている)を題材とする。古代ローマの歴史・社会(法を含む)・文化に対する興味感心を喚起すると共に、ローマ法がいかなる法的紛争に対し、いかなる解決を与えてきたかを史料と研究文献とに基づいて検討する。	西暦偶数年度開講。 02DME46と同一。
OBBE715	法と現代社会4B	2	1.0	1 - 3	秋C	応談		宮坂 渉	国家制度と法が時代的、地域的に限定された諸条件の下で生み出され展開されること、それにもかかわらずローマ法は日本を含む現代世界まで受け継がれるだけの普遍性を内包していたこと、を理解することができるようになることを目標とする。本演習では、ヨーロッパの法文化の基礎であり、これを受け継いだ日本の法文化の基礎の一部でもある、古代ローマの国家制度と法(一般にローマ法と呼ばれている)を題材とする。古代ローマの歴史・社会(法を含む)・文化に対する興味感心を喚起すると共に、ローマ法がいかなる法的紛争に対し、いかなる解決を与えてきたかを史料と研究文献とに基づいて検討する。	西暦偶数年度開講。 02DME47と同一。
OBBE750	ユーラシア研究演習1	2	1.0	1 - 3	秋ABC	応談		塩谷 哲史, ダダバエフ ティムール	ソ連解体後のユーラシア諸国・地域における国家建設と社会変成の文脈の中での、政治組織の生成と発展のあり方について議論する。とくに、ソ連解体以降の地域統合、資源の分配、歴史の記憶、マハツラを中心とした社会編制などを取り上げながら、ユーラシア諸国の政治組織の生成と発展のあり方について考察する。	西暦偶数年度開講。 02DMQ13と同一。
OBBE751	ユーラシア研究演習2	2	1.0	1 - 3	秋ABC	応談		塩谷 哲史, ダダバエフ ティムール	ソ連解体後のユーラシア諸国・地域における政治組織の形成と解体過程について議論する。とくにソ連の遺産の政治的、社会的影響、国内政治エリート、社会内の諸アクターの役割、国際NGOの活動、マハツラを中心としたコミュニティ組織の社会的役割と政治参加などについて総合的に検討し、議論する。	西暦偶数年度開講。 02DMQ14と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE752	ユーラシア研究演習3	2	1.0	1 - 3					中央ユーラシア史またはユーラシア地域と日本の交流史に関する研究文献を講読し、その内容について議論する。中央ユーラシア史の展開に関しては、ユーラシア草原地帯における騎馬遊牧民集団の誕生から、シルクロードに代表される東西交易の展開、テュルク化とイスラーム化、モンゴル帝国・ティムール帝国の成立と展開、その後の中央ユーラシアの周縁化プロセスについて、最新の研究動向を把握し、個々の研究論文の内容について議論していく。また日本における中央アジア、ユーラシア理解、とくにシルクロード論争の展開などについて学び、その内容を議論する。	02DMQ11と同一。 2020年度開講せず。
OBBE753	ユーラシア研究演習4	2	1.0	1 - 3					中央ユーラシア史、人類学に関する研究文献を講読し、その内容について議論する。とくに19世紀以降のロシア帝国・ソ連期の中央ユーラシア諸国の政治、社会、経済、文化に関する歴史学、人類学を中心とした諸分野の研究論文を取り上げながら、その内容を議論する。またシルクロード探検事業から今日の中央アジアプラス日本の外交枠組み構築に至るまでの、19世紀後半以降の日本とユーラシア諸国との関係史について学ぶ。	02DMQ12と同一。 2020年度開講せず。
OBBE754	日本・ユーラシア研究演習1	2	1.0	1 - 3					日本と旧ソ連諸国との外交・経済関係の展開について、歴史学、国際関係学の視点から議論する。とくに、中央アジアプラス日本の外交枠組みの中での日本と中央アジア諸国との関係構築の歩みと現状を検討し、それらと中国、韓国などの中央アジア諸国に対するアプローチとの共通点、差異について理解を深めるとともに、今後の課題について議論する。	2020年度開講せず。
OBBE755	日本・ユーラシア研究演習2	2	1.0	1 - 3	春AB	火2		塩谷 哲史	日本と旧ソ連諸国との異文化交流の展開について、歴史学、国際関係学の視点から議論する。とくに、日本のユーラシア諸国・地域の文化振興面での支援や日本文化の普及に向けた取り組みについて、そのあり方と問題点について議論する。	西暦偶数年度開講。
OBBE756	ユーラシアの国際関係1	1	1.0	1 - 3	秋AB	応談		ダダバエフ ティムール	JICAつくばや他の国際協力機関と連携しながら、ユーラシア諸国の社会、経済が直面している様々な課題について学ぶ。またODAとその評価、効果的な水資源管理体制の構築、一村一品運動に代表される地域振興、NGOなど非政府組織の社会的役割とそれに対する支援などのユーラシア諸国の社会・経済問題解決に向けた取り組みの実態について理解するとともに、その問題点について議論する。	西暦偶数年度開講。
OBBE757	ユーラシアの国際関係2	1	1.0	1 - 3					日本による中央アジアプラス日本のイニシアティブとロシア、中国などが主導する上海協力機構に焦点をあて、これらの外交イニシアティブの利点、弱点、課題と将来を検討する。とくに韓国、中国の対中央アジア外交および援助のあり方との比較を通じて、日本の対中央アジア外交の特徴を明らかにするとともに、米国、EU、ロシアなど中央アジア諸国への関与と、日本の関与のあり方との相互性についても検討する。	02DMQ15と同一。 2020年度開講せず。
OBBE800	日本語教育学プログラム演習1A	2	1.0	1	春AB	水4,5		木戸 光子, 小野正樹, 井出 里咲子, 高木 智世, ブッシュネル ケード コンラン, 関崎 博紀, ルートヴァンバーレン	受講生は、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講生には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦偶数年度開講。 02DMW33と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE801	日本語教育学プログラム演習1B	2	1.0	1	秋AB	火4,5		木戸 光子, 小野正樹, 井出 里咲子, 高木 智世, ブッシュネル ケード コンラン, 関崎 博紀, ルートヴァンパーレン	受講生は、「日本語教育学プログラム演習1A」をふまえ、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。発表内容は「日本語教育学プログラム演習1A」と異なるものとする。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦偶数年度開講。O2DMW34と同一。
OBBE802	日本語教育学プログラム演習2A	2	1.0	2					受講生は、「日本語教育学プログラム演習1B」をふまえ、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。発表内容は「日本語教育学プログラム演習1A」「同1B」と異なるものとする。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	O2DMW29と同一。2020年度開講せず。
OBBE803	日本語教育学プログラム演習2B	2	1.0	2					受講生は、「日本語教育学プログラム演習2A」をふまえ、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。発表内容は「日本語教育学プログラム演習1A」「同1B」「同2A」と異なるものとする。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	O2DMW30と同一。2020年度開講せず。
OBBE810	言語表現研究1A	2	1.0	1・2					日本語教育に関連した文章・談話研究について理論および研究方法について知見を深め、日本語学習者および日本語母語話者の書いた日本語の文章・談話を分析・記述する能力を身につけることを目標とする。特に、日本語の文章表現を対象とした研究の中で基礎的な研究を中心に取り上げる。授業では、関連領域の文献も含めて読み、研究の視野を広める。文献を読んで研究内容を理解した上で、研究の意義や背景、問題点などを批判的に検討する。授業方法としては、日本語学および日本語教育、言語学の文章・談話関係の文献を精読し、ディスカッションを行う。文献講読は分担を決め、発表者は概要をレジュメにまとめて説明する。講読した文献の内容について重要点と自分の意見をまとめたレポートを毎回課す。さらに、各自の研究テーマについて、論文講読、文章データ分析、発表、論文作成も適宜行う。	O2DMW17と同一。2020年度開講せず。
OBBE811	言語表現研究1B	2	1.0	1・2					日本語教育に関連した文章・談話研究について理論および研究方法について知見を深め、日本語学習者および日本語母語話者の書いた日本語の文章・談話を分析・記述する能力を身につけることを目標とする。特に、日本語の文章表現を対象とした研究の中で応用的な研究を中心に取り上げる。授業では、関連領域の文献も含めて読み、研究の視野を広める。文献を読んで研究内容を理解した上で、研究の意義や背景、問題点などを批判的に検討する。授業方法としては、日本語学および日本語教育、言語学の文章・談話関係の文献を精読し、ディスカッションを行う。文献講読は分担を決め、発表者は概要をレジュメにまとめて説明する。「言語表現研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	O2DMW18と同一。2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE812	言語表現研究2A	2	1.0	1・2	秋C	応談		木戸 光子	日本語教育に関連した文章・談話研究について理論および研究方法について知見を深め、日本語学習者および日本語母語話者の書いた日本語の文章・談話を分析・記述する能力を身につけることを目標とする。特に、日本語の書き言葉を対象とした研究の中で基礎的な研究を中心に取り上げる。授業では、関連領域の文献も含めて読み、研究の視野を広める。文献を読んで研究内容を理解した上で、研究の意義や背景、問題点などを批判的に検討する。授業方法としては、日本語学および日本語教育、言語学の文章・談話関係の文献を精読し、ディスカッションを行う。文献講読は分担を決め、発表者は概要をレジュメにまとめて説明する。「言語表現研究1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 02DMW19と同一。
OBBE813	言語表現研究2B	2	1.0	1・2	秋C	応談		木戸 光子	日本語教育に関連した文章・談話研究について理論および研究方法について知見を深め、日本語学習者および日本語母語話者の書いた日本語の文章・談話を分析・記述する能力を身につけることを目標とする。特に、日本語の書き言葉を対象とした研究の中で応用的な研究を中心に取り上げる。授業では、関連領域の文献も含めて読み、研究の視野を広める。文献を読んで研究内容を理解した上で、研究の意義や背景、問題点などを批判的に検討する。授業方法としては、日本語学および日本語教育、言語学の文章・談話関係の文献を精読し、ディスカッションを行う。文献講読は分担を決め、発表者は概要をレジュメにまとめて説明する。「言語表現研究1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 02DMW20と同一。
OBBE814	言語と行動理論研究1A	2	1.0	1・2					日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話や、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、レジュメ作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。	02DMW13と同一。 2020年度開講せず。
OBBE815	言語と行動理論研究1B	2	1.0	1・2					日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話や、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、レジュメ作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。「言語と行動理論研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	02DMW14と同一。 2020年度開講せず。
OBBE816	言語と行動理論研究2A	2	1.0	1・2	春AB	金3		小野 正樹	日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話の流れや、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。「言語と行動理論研究1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	02DMW15と同一。
OBBE817	言語と行動理論研究2B	2	1.0	1・2	秋AB	金3		小野 正樹	日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話の流れや、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。「言語と行動理論研究1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	02DMW16と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE818	社会言語学研究1A	2	1.0	1・2	春AB	月2		ルート ヴァン バーレン	どの言語も社会や社会変化の影響を受けて変化する、さまざまなバリエーションが生まれる。一時的にのみ流行るバリエーションもあれば、定着するものもあり、それぞれを日本語教育に取り入れる必要性や困難について考える。受講者が順番に先行研究を踏まえて発表を行う。発表者には、博士論文完成のため、そして学会参加の際の質疑応答のため、徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成・発表技術を求め、受講者には批判的かつ建設的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。授業での使用言語(日本語・英語)は受講者と相談のうえで決める。	西暦偶数年度開講。
OBBE819	社会言語学研究1B	2	1.0	1・2	秋AB	月2		ルート ヴァン バーレン	どの言語も社会や社会変化の影響を受けて変化する、さまざまなバリエーションが生まれる。一時的にのみ流行るバリエーションもあれば、定着するものもあり、それぞれを日本語教育に取り入れる必要性や困難について考える。受講者が順番に先行研究を踏まえて発表を行う。発表者には、博士論文完成のため、そして学会参加の際の質疑応答のため、徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成・発表技術を求め、受講者には批判的かつ建設的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。授業での使用言語(日本語・英語)は受講者と相談のうえで決める。「社会言語学研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。
OBBE820	社会言語学研究2A	2	1.0	1・2					どの言語も社会や社会変化の影響を受けて変化する、さまざまなバリエーションが生まれる。一時的にのみ流行るバリエーションもあれば、定着するものもあり、それぞれを日本語教育に取り入れる必要性や困難について考える。受講者が順番に先行研究を踏まえて発表を行う。発表者には、博士論文完成のため、そして学会参加の際の質疑応答のため、徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成・発表技術を求め、受講者には批判的かつ建設的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。授業での使用言語(日本語・英語)は受講者と相談のうえで決める。「社会言語学研究1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。
OBBE821	社会言語学研究2B	2	1.0	1・2					どの言語も社会や社会変化の影響を受けて変化する、さまざまなバリエーションが生まれる。一時的にのみ流行るバリエーションもあれば、定着するものもあり、それぞれを日本語教育に取り入れる必要性や困難について考える。受講者が順番に先行研究を踏まえて発表を行う。発表者には、博士論文完成のため、そして学会参加の際の質疑応答のため、徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成・発表技術を求め、受講者には批判的かつ建設的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。授業での使用言語(日本語・英語)は受講者と相談のうえで決める。「社会言語学研究1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。
OBBE822	対人配慮行動理論研究1A	2	1.0	1・2	春AB	月5		関崎 博紀	欧米で提唱されてきた対人配慮の行動に関する理論、及び当該理論に対するその後の批判を講読する。参加者自身も批判的に検討を加えるだけでなく、各自が持つデータからどのような修正が可能を実証的に議論する。	西暦偶数年度開講。
OBBE823	対人配慮行動理論研究1B	2	1.0	1・2	秋AB	月5		関崎 博紀	欧米で提唱されてきた対人配慮の行動に関する理論、及び当該理論に対するその後の批判を講読する。参加者自身も批判的に検討を加えるだけでなく、各自が持つデータからどのような修正が可能を実証的に議論する。「対人配慮行動理論研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。
OBBE824	対人配慮行動理論研究2A	2	1.0	1・2					欧米で提唱されてきた対人配慮の行動に関する理論、及び当該理論に対するその後の批判を講読する。参加者自身も批判的に検討を加えるだけでなく、各自が持つデータからどのような修正が可能を実証的に議論する。「対人配慮行動理論研究1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。
OBBE825	対人配慮行動理論研究2B	2	1.0	1・2					欧米で提唱されてきた対人配慮の行動に関する理論、及び当該理論に対するその後の批判を講読する。参加者自身も批判的に検討を加えるだけでなく、各自が持つデータからどのような修正が可能を実証的に議論する。「対人配慮行動理論研究1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE826	ことばと行為のマイクロ分析研究1A	2	1.0	1・2					会話分析の研究に対する批判の一つとして、順番取りや行為連鎖などとフォカスがあまりにもマイクロのせいで、その会話が置かれているいわゆる「コンテキスト」を見落とすがちだということである。会話分析では「コンテキスト」という概念がどのように捉えられるか、またコンテキストに関わる情報を記述しようとするエスノグラフィー的な研究手法とどのような関係を持つ可能性があるのかについて考えるために、会話分析とエスノグラフィーの相性について論じる研究や、会話分析とエスノグラフィーの手法を併用する「マイクロエスノグラフィー」の研究を取りあげる。授業では対象文献の内容を丁寧に確認し、ディスカッションをすることによって理解力を深める。また、受講生は各自でデータを集め、マイクロエスノグラフィー的な手法を用いて小規模な研究プロジェクトを遂行する。最後にその成果をレポートにまとめて提出する。	02DMW21と同一。 2020年度開講せず。
OBBE827	ことばと行為のマイクロ分析研究1B	2	1.0	1・2					エスノメソドロジー的な研究によって、第2言語学習に関する研究に対してどのような見解が提供できるかを検討していきながら、特にSacks (1972a, 1972b, 1979, 1995)によって提唱され、Watson (1978, 1997)やJayyusi (1984)、Hester & Eglin (1997)、Stokoe (2012)、Bushnell (2014)、Fitzgerald & Housley (2015)などによってさらに展開されてきている成員カテゴリー化分析の基本的な考え方や分析の技術を身につけることを狙う。	02DMW22と同一。 2020年度開講せず。
OBBE828	ことばと行為のマイクロ分析研究2A	2	1.0	1・2	春AB	月6	ブッシュネル ケード コンラン		ことばと行為のマイクロ分析研究2Aと2Bでは、1Aと1Bなどで身につけた分析技術を駆使して、一学年を通して教員と受講生全員やその他の協力研究者、院生で分担して英語でオリジナルな研究を論文の形にまとめて共著で実際に投稿することを目標とする。2Aでは特に先行研究を吟味して自分たちで執筆する論文に使うデータや研究課題を検討しつつ毎週の発表で進捗状況を報告していく。	西暦偶数年度開講。 02DMW23と同一。
OBBE829	ことばと行為のマイクロ分析研究2B	2	1.0	1・2	秋AB	月6	ブッシュネル ケード コンラン		ことばと行為2Bでは、2Aから進めてきている研究を継続しさらに発展させ、共同で一本の論文を英語で執筆する。最終的には適切な投稿先を決め実際に投稿していただくことを目指す。	西暦偶数年度開講。 02DMW24と同一。
OBBE990	プロジェクト演習3A	2	1.0	1	秋ABC	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 関 能徳, 文 昶允, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一三 朋子, 後藤 嘉宏, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰榮, 井出 里咲子, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ダダバエフ ティムール, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, 塩谷 哲史, ルート ヴァンパーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の構成および執筆計画を発表する。主に4月入学者が受講する。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBE991	プロジェクト演習3B	2	1.0	1	春ABC	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 関 能徳, 文 昶允, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一三三 朋子, 後藤 嘉宏, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰栄, 井出 里咲子, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ダダバエフ ティムール, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, 塩谷 哲史, ルート ヴァンバーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の構成および執筆計画を発表する。主に10月入学者が受講する。	
OBBE992	プロジェクト演習4A	2	1.0	2	秋ABC	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 関 能徳, 文 昶允, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一三三 朋子, 後藤 嘉宏, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰栄, 井出 里咲子, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ダダバエフ ティムール, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, 塩谷 哲史, ルート ヴァンバーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の中核となる諸章を発表する。主に4月入学者が受講する。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
0BBE993	プロジェクト演習4B	2	1.0	2	春ABC	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 関 能徳, 文 昶允, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一三三 朋子, 後藤 嘉宏, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タック, 小野 正樹, 崔 宰栄, 井出 里咲子, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ダダバエフ ティムール, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, 塩谷 哲史, ルート ヴァンバーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の中核となる諸章を発表する。主に10月入学者が受講する。	